

逗葉高校の授業（現代文）実施報告

中島敦の小説『山月記』の学習で、要約する力（読む）・表現する力（話す・聞く）を高めるための言語活動を盛り込みました。（50分授業×4）

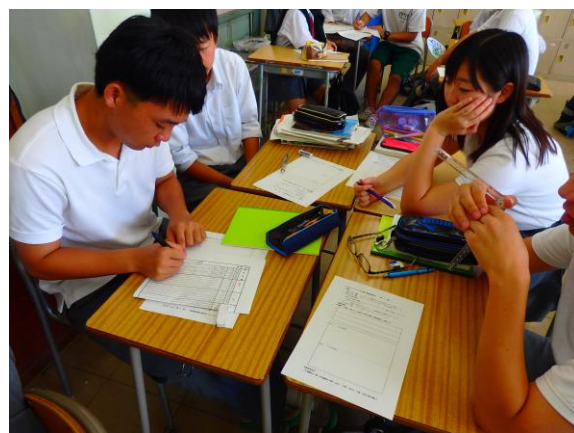
まずは第一次の授業では、各自で七つの段落に分け、その各段落にふさわしい「副題」を漢字一字で要約するという作業に取り組みました。その際に「選定した理由」も明らかにすることが条件の一つに加えられました。

第二次の授業では、授業者から、本文のどの箇所が段落が区切られるのか、根拠を示されながら伝えられました。あわせて登場人物の心理や自然描写の効果、表現の特徴等を中心に、本文読解の授業が展開されました。

第三次の授業は、「副題漢字」の各自の判断結果を五人一組のグループで共有し、最良案を作成する協議を行いました。各グループで最良案が出来上がった後に、クラス内全体でプレゼンテーションをするための説明原稿の作成に取り組みました。各自分担箇所の原稿を作成しますが、発表内容の統一性を図るために各グループとも話し合いをして、工夫を凝らすことにしました。また、『漢和辞典』を引きながら、字の持つ意味を紹介する要素も説明原稿に加えたケースも見受けられました。



【グループで協議する】



【説明原稿を書く】



【スライドを使用してプレゼンテーションする】



【相互評価として投票する】

「テレビ番組制作スタッフになったつもり」で、スライドを使用して各段落の副題漢字等を投影しながら、グループ全員が分担発表しました。あわせて、相互評価として最優秀プレゼンテーショングループを選出する投票をしました。授業終了後のアンケートには、「（副題の漢字の選定理由の）説明を聞くと

納得してしまう。」「“テレビスタッフになって”というシチュエーションが新鮮だった。」「(副題の)漢字の選び方もグループによって違うけれども、どれも不思議にみんなマッチしている。」といったコメントが記されていました。生徒はプレゼンテーションを通して、他のグループの発表を聞き、多種多様な思考や判断や表現があることを知る機会となりました。

逗葉高校では、生徒の「深い学び」を目指して、主体的・対話的・協働的な授業に取り組んでいます。